

こくろう秋田

国鉄労働組合
秋田地方本部
(秋田市中通
7-2-21)
018-832-3775
発行責任者 瀬下 一司
編集責任者 佐藤 浩一

山形地区配転者を激励

国鉄の分割・民営化を前後して、山形地区に大量の国労組合員が不当配転され、その後山形地区が仙台支社管轄になったため秋田への今年で5回を数えることになった。

毎年、秋田と新庄の持ち回りで開催されてきたが、今年是新庄駅近くの「清清亭」を会場に9月12日開催された。

配転から22、23年という年月の中では、特に、2001年の「ユニオン結成」という大きな組織破壊攻撃を経験しながらも国労で頑張っている多くの仲間と交流することができた。

交流会は新庄地区協の若野議長の司会あいさつで開始され、瀬下委員長からは「配転者6人全員が26歳前後の国労組合

員だった秋田運転支所。今は廃墟と化し、草莽々となった構内のそばを通勤で通る度に当時のことを思う。それぞれの思いを出し合うと同時に職場の闘いの交流もと挨拶。続いて仙台地本を代表し武田教宣部長、山形支部の田村執行委員からそれぞれ挨拶をいただいた。

また、来賓として全国交運共済東日本副部長の佐藤勝雄氏(前本部委員長)が参加され、仙台地方本部、東日本本部役員としてこの配転問題に深く関わってきた思いなどを話された。

その後、各地区・分会毎に自己紹介を行い、参加者からは「親が高齢化しており、元気なうちに何とか地元に戻りたい」と安心させてやりたい。その一方で「こちらの生活が長くなる中で、子供の学校など家族の事情ですぐには帰れない」などの話が出された。また、国鉄当時、山形地区は秋田鉄道管理局管内だったことで、国鉄採用時、山形地区に採用・配属されたものの、いずれは秋田に帰れるという希望を持ちながらも「国替え」によって希望を断たれ、悔しい思いをしていた仲間も多かった。

不当配転から20余年 悲喜交々



△地元に戻すための、長年の闘いを述懐して挨拶する佐藤勝雄前本部委員長

間も多しことなども話された。短い時間だったが、時間の許す限り大いに交流を深めた一日だった。

◆ 地方本部の参加者は瀬下委員長他12名(秋総車七支部3名、横手大曲駅連5名、秋田運転区1名、横手大曲工務1名、秋田工務1名、横手運転区2名)、山形支部からは19名が参加した。(写真提供/小嶋)



◇時間を忘れて昔年の思いに談笑する参加者



◇写真・左/献杯の音頭をとる新庄連合分会：能登井分会長(元横手保線区分会)

